

## 第二節 主力艦ノ備砲制限

「リー卿  
ノ提案  
スル海軍専門委員會  
代換ニ關スル問題ノ外ハ全部各國ノ協賛ヲ經タルモノナルコトヲ言明シ更ニ代艦建造

主力艦ノ備砲制限ニ付提議致シ度シトヲ左ノ案ヲ朗讀ス

“That no warship shall carry a gun of greater calibre than sixteen inches.”

一、議長ハ米國政府カ右提議ヲ受諾スル旨ヲ宣シ 増原次官「アクトン」中將 (Admiral Acton) 「ラボン」中將 (Admiral de Bon) 皆右提案ヲ受諾ス

三、茲ニ於テ議長ハ主力艦ニ關スル限り代艦建造問題ノ外ハ全部各國ノ協賛ヲ經タルモノナルコトヲ言明シ更ニ代艦建造問題ニ關シテハ事専門的事項ニ涉ルヲ以テ之ヲ海軍専門家ノ研究ニ移シ若シ該研究ノ進行中萬一政策問題ニ觸ルル場合

アラハ更ニ本委員會ニ於テ解決スヘキヲ諸リ尙各國専門委員ハ自國ニ對スル代艦建造方法ヲ研究ノ上各専門委員ニ配布セラレ度シト附言シ閉會

## 第二章 航空母艦

### 第一項 第十回軍備制限總委員會

(千九百二十一年十一月二十八日)

「ヨュー  
ズ」提議  
一、潛水艦ニ關スル「ルート」氏決議案ノ討議アリタル後議長ハ次テ航空母艦ノ討議ニ入ルヲ宣シ本會議開會ニ際シ米國ノ  
提案シタル航空母艦ノ總噸數ハ

亞米利加合衆國 八〇、〇〇〇噸

英帝國 八〇、〇〇〇噸

日本國 四八、〇〇〇噸

ナリシコトヲ指摘シ且佛、伊ニ主力艦ノ場合ト同一ノ率ヲ適用スルトキハ

佛蘭西國 二八、〇〇〇噸

伊太利國 二八、〇〇〇噸

トナルコトヲ擧ケ、尙曩ニ爲シタル米國ノ提案中ニハ各國ノ現在ノ航空母艦ノ代總噸數カ其許容セラルル噸數ヲ超過スルモ代換開始ニ至ル迄ハ其超過噸數ノ廢棄ヲ要求セラルルコトナク、代換ノ時ニ於テ規定噸數迄減縮セラルヘキ規定アリタルコトヲ擧ク議長ハ又航空母艦ノ噸數ハ略主力艦ニ近接スヘキカ故ニ其點ニモ制限ヲ加フルノ必要アリトシニ萬七千噸ヲ以テ航空母艦ノ最大限ト爲サムコトヲ提議シ且航空母艦ニ主力艦以外ノ一切ノ軍艦ト同様口徑八吋以上ノ大砲ハ搭載スルヲ許サナルヲ至當トスト前提シ左ノ案ヲ朗讀シ之ヲ航空母艦ニ關スル規定ニ附加セムコトヲ求ム

“No airplane carrier shall be laid down during the term of this agreement whose tonnage displacement is in excess of 27,